

〔課程-2〕

審査の結果の要旨

氏名 中山 莉彩

ソーシャルキャピタルとメンタルヘルスの関連性を東ヨーロッパ、とくに紛争後の地域で調査したものは少ない。本研究は、1999年のコソボ紛争後11年たってもなお、民族間で北と南に分断されている都市ミトロビツァにおいて、アルバニア人、セルビア人、その他の少数民族のソーシャルキャピタルとメンタルヘルスとの関連を検証する事を目的として行い、下記の結果を得た。

1. 研究デザインはフィールドベースの横断研究とした。研究参加者は、調査地ミトロビツァで2010年11月に国連開発計画コソボ事務所の調査に任意で参加した16歳以上の市民である。1239名の対象者中、80.1%の994名(アルバニア人497名セルビア人300名、マイノリティ197名)の市民からの回答を得た。メンタルヘルスの測定にはHADSを使用し、ソーシャルキャピタルは親戚、友人、他人とのコンタクトの頻度によって測定した。
2. 今回の調査において鬱傾向を示した者の割合は50.7% (セルビア人) から63.8% (少数民族)、不安傾向の割合は52.2% (セルビア人) から73.3% (アルバニア人) であり、不安傾向の民族間差は統計学的に有意であった。

アルバニア人、セルビア人、少数民族の中で、他人とのコンタクトが全くない者は、よりコンタクトを取っている者と比べて、2.09倍 [95%信頼区間(CI): 1.09-4.01], 3.48倍 (95% CI: 2.47-4.91)、13.17倍 (95% CI: 3.57-48.54) 高く、鬱傾向に関連していた。

加えて、少ない頻度で友人とコンタクトを取る者はアルバニア人、セルビア人で1.76倍 (95% CI: 1.02-3.03) と2.68倍 (95% CI: 1.71-4.20) 高く、鬱傾向に関連していた。セルビア人で親族とのコンタクトが少ない者は1.97倍 (95% CI: 1.42-2.72) 鬱傾向が高いが、アルバニア人については、より親戚とのコンタクトが少ない者ほど鬱傾向が52%低くなっていた。

不安傾向においては、他人とコンタクトを取った事の無い者はアルバニア人で2.54倍 (95% CI: 1.39-4.63)、マイノリティで4.67倍 (95% CI: 1.29-16.96) リスクが高かった。友人とコンタクトをとる頻度が少ない者はアルバニア人で3.27倍 (95% CI: 1.97-5.43)、セルビア人で1.82倍 (95% CI: 1.02-3.24) 高く不安傾向を示していた。

3. 本調査地域において鬱傾向と不安傾向は高く、ソーシャルキャピタルは民族間で差異があった。また、本調査はミトロビツァにおいてソーシャルキャピタルとメンタルヘルス

との間には関連がある事を示した。多くの場合、親戚、友人、他人とのコンタクトが少ない者ほど鬱傾向と不安傾向は高くなっているが、アルバニア人は親族とのコンタクトが少ない者ほど鬱傾向のリスクは低かった。

以上の結果より、ミトロビツァにおいてソーシャルキャピタルとメンタルヘルスの間には関連があり、ソーシャルキャピタルは多くの場合有用な役割を担っているものの、同時に鬱傾向との関連性もあることが示された。

紛争後、まだ緊迫した状況が続くコソボ・ミロビツァにおいて、自由にコソボ内を移動できず、十分な医療行為や医療物資が得られない市民が多い中でメンタルヘルスを改善するためには、民族差とソーシャルキャピタルの役割を考慮する事が重要であることが示唆された。

本研究はコソボやその他の旧ユーゴ諸国でソーシャルキャピタルとメンタルヘルスの重要性を意識させる事に大きく貢献すると期待でき、学位の授与に値するものと考えられる。